

Doc.No : NR030225

2003年2月25日

## 東大とバイオ分野向けのマイクロ流体チップの開発に着手 ～金属製でバイオチップの低コスト化と量産化を狙う～

大日本スクリーン製造株式会社(本社：京都市上京区／社長：石田 明)は、東京大学と医療やバイオ分野、化学合成分野\*にも利用可能な金属製マイクロ流体チップの開発と試作サンプルの製作に着手し、さらに同チップの量産化技術の確立を目指します。

マイクロ流体チップとは、数センチ四方程度の基板上に被検査物や試料を入れる穴と太さ数十ミクロンの微細な流路を形成したもの。当社は、東京大学生産技術研究所の藤井輝夫助教授の協力のもと、ブラウン管用シャドウマスク製造で培ったフォトエッチング技術を応用し、50～100ミクロンの幅の高精度な流路を持つ金属製マイクロ流体チップを開発し、試作サンプルの製作に着手。また、約3年後をめどに金属製マイクロ流体チップの実用化に向けて、シャドウマスクの製造設備を応用した量産体制を確立させる見込みです。

### \*化学合成分野

ファインケミカルの合成を対象とした産業、研究分野。ファインケミカルとは、素材を加工し付加価値を高めた化学品の総称で、医薬品の原料、ビタミン類、化粧品原料などが含まれる。

### ●藤井輝夫助教授

東京大学生産技術研究所・海中工学研究センター助教授。マイクロ流体チップ製造に関する研究の第一人者。